

「まじわる」

エピソード

優子さんは真弓ちゃんを連れて、チラシで見た育児サークルを初めてたずねました。活動場所のコミュニティセンターに行ってみると中から大きな笑い声。

優 子：「わー、明るそー。こういうのってなんだかイヤなんだよね。でも、勇気を出してっと。おはようございまーす。」

サークルの人：「おはようございます。あら？初めての方ね。どちらから？」

優 子：「〇〇町から来ました。」

サークルの人：「まあ、それなら今村さんのご近所ね。ご存じ？今村さん。」

優 子：「いやー。引っ越してきたばかりなんで…。」

サークルの人：「そうなの。今村さんは今日は来ていないようだから、また紹介するわね。

さあ、そんなところに立ってないでこちらにどうぞ。たくさんお友だちがいるわよ。

さあいらっしゃい。お母さんはこちらで、名前と連絡先を書いてくださいね。」

優 子：「はあー…」

とりあえず見学だけさせてもらおうと来てみたのですが、ずるずると参加することになってしまいました。

それから1ヶ月。真弓ちゃんが喜ぶので、あれからずっと来ているのですが、優子さんはどうもうまくなじめません。今日はとうとうどうしても家の用事があるのでと言って、真弓ちゃんだけを置いて帰って来てしまいました。

優 子：「私ってもともと大勢の人と話すのがにがてなんだよね。話題がないし、話していてもこちらのアラ探しをされている気がするのよね。子どもどうしはすぐに仲良くなれるけど大人はそうはいかないわ。」

玄関に誰かが来ました。

今 村：「こんにちは。」

優 子：「こんにちは。あっ真弓。まあ、もうそんな時間だったんですか。迎えに行くのをすっかりしていましたわ」

今 村：「いや、今日は雨も降りそうだし、少し早く



切り上げることになったのよ。ついでだったんで真弓ちゃんもいっしょに帰ってきたのよ。」

優 子：「まあ、わざわざすみません。お茶でもいかがですか。」

今 村：「せっかくだけど、私もこれから食事の用意があるのよ。
じゃ、真弓ちゃん、さよなら。またね。」

優 子：「ありがとうございました。」



優子さんのひとりごと…

● あー、びっくりした。
はやく終わるなんて言って
なかったじゃない。今村さんだって、
ひょっとして本当に用事かどうか
見に来たんじゃ…。
それに、みんなはずっと同じサークルに
いて人間関係ができあがっているし…。
何だか入っていく余地なんか
ありゃしない。もうやめようかな…。



話しあいのポイント

● エピソードを読んで気になるところはどこでしょうか？

● 優子さんの考え方について共感できるところ、違うなと感じるところはどこでしょうか？
